



No.92 2009・7・15

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館

〒920-0963 金沢市出羽町3番1号

TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836

http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/

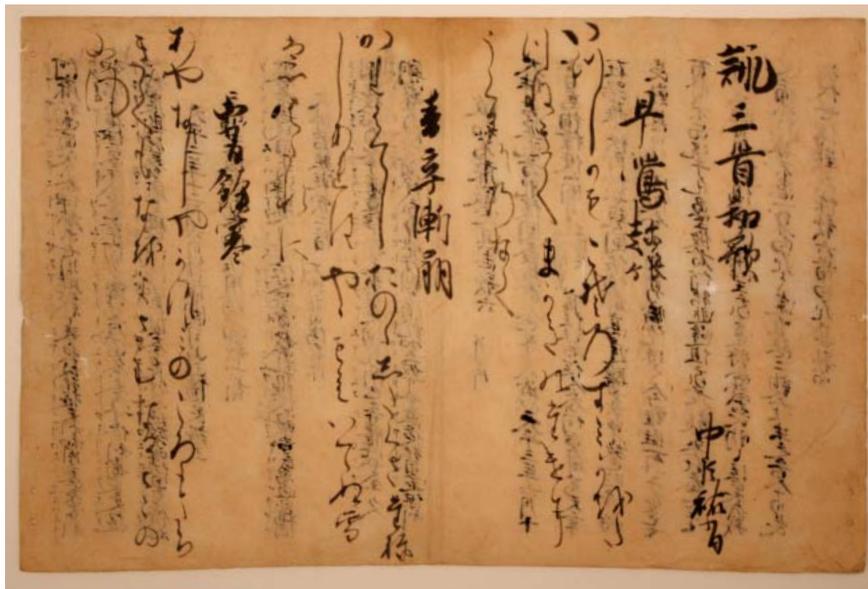


ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れ
き
は
く

重要文化財指定記念 夏季特別展

春日懐紙・春日本万葉集と ふるさとの文芸



春日懐紙（中臣祐有 詠三首和歌）

会 期

7月18日(土)～8月31日(月)

会 場 第1特別展示室

開館時間 午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)会期中無休

入 館 料 一 般 500円(400円)

大学生 400円(320円)

65歳以上 400円

高校生以下無料 ()内は20名以上の団体料金

講演会 < 聴講無料 >

日 時 8月8日(土) 午後1時30分～

会 場 学習ホール

講 師 文部科学省教科書調査官 田中大士 氏

演 題 懐紙に隠れた万葉集

春日懐紙・春日本万葉集 変転の歴史

申込不要・当日受付へお申し出下さい。

当初7月19日開催予定でしたが、都合により日程変更になりました。ご了承下さい。

重要文化財指定記念 夏季特別展

春日懐紙・春日日本万葉集と
ふるさとの文芸

一、重要文化財 春日懐紙

まず、春日懐紙のことから説明しましょう。懐紙とは、文字のとおり懐に入れていたような普段使いの紙でした。時代劇で、人を切った武士が刀の血を拭き取っているのもこの紙です。

鎌倉時代、奈良の東大寺や興福寺、春日大社などでは、和歌文化が盛んになっていました。僧侶や神官が、和歌の練習に使い、みんなで披露しあう歌会で和歌を書いたのもこの懐紙です。この時、裏はまだ白紙でした。寛元元年（一一四三）、春日大社の撰社（系列社）若宮社の神官である中臣祐定が、その裏面を利用して、万葉集の書写を企画しました。E.C. の精神が窺えますね。

祐定は、和歌が書いてある面を内側にして二つ折りにしました。皺が激しくて使いづらい懐紙は、水で伸ばしてまた使います。和歌面と和歌面を合わせて水で濡らして皺を伸ばしていきます。この作業を「打ち紙」といいます。皺が伸びたら二枚に戻し、乾かして、また折って使います。小口を右、耳（輪

になった方）を左にして置き、木や竹のへらで押して線を引いた痕もみられます。



春日懐紙（中臣祐有 詠三首和歌）

二つに折った紙には万葉集（のち、春日日本万葉集と呼ばれます）が筆写され、重ねて綴じ穴があげられました。1cmくらいの間隔で二つ、これが上・中・下の三方所あり、糸で綴じて本にしたのです。下段の写真は右の春日懐紙の裏面にあたります。最初の漢字の行をみてみましょう。「阿麻社迦留比奈

尔伊都水世周麻比都々美夜故能提夫利和周良延尔家利」（あまさがる ひなにいつとせ すまひつゝみやこのてふり わすらえにけり）と三十一の漢字が一行に書かれています。たくさん漢字も一行に書くのが春日日本万葉集の特徴の一つでした。



裏面の春日日本万葉集（巻5 - 880 ~ 886）

この万葉集は、茶道が確立した戦国〜江戸初期に大きな転機を迎えました。茶掛けなどの用途から懐紙が珍重されたことにより、綴じ糸が切られて、一

枚ずつの紙（懐紙）に戻されたのです。左右の端をよく見てください。小さな穴が確認できますよ。この懐紙を和歌の作者ごとに整理袋を作って保管していたのが、加賀藩主前田家でした。

現在、確認されている春日懐紙は約百五十枚、その大部分が前田家に保管されていたものでした。裏面には万葉集の痕跡が認められますが、当時のままに残っているものは全国に二十数枚しかありません。そのうちの六枚が本館所蔵ですから、これは「すばしい」といえるでしょう。

本館が所蔵する春日懐紙の伝来は、加賀藩主前田家から幾人かの手を経て、金沢在住の郷土史家・大鋸彦太郎氏（故人）の手に渡り、昭和五十五年（一九八〇）に御遺族から入手したものです。

二、和歌のたのしみ

春日懐紙（春日日本万葉集）の時代は、藤原定家らによって『新古今和歌集』が編さんされた時期であり、身分・階層を超えて和歌が盛んになった時期でもありました。室町・戦国時代以降は、和歌は地方大名と京都公家とを結ぶ手段としても用いられました。また、和歌を詠むばかりでなく、和歌を書く書体を学んだり、和歌の意味を絵にしてそれを楽しむといった、立体的な広がりも確認されてきました。歌人の肖像や和歌、その文字を楽しむ「三十六歌仙」や、和歌の意味を絵にした「歌意图」も盛んに

描かれています。

本展では、和歌を記した文字資料や和歌を詠んだ



佐々木泉景画 自讃歌画帖



六玉川歌意图屏風（部分）



柿本人麻呂
（三十六歌仙色紙貼交屏風より）



小野小町
（三十六歌仙色紙貼交屏風より）

歌人の肖像、和歌の意味を絵にした屏風など、約四十点を展示します。好きな絵、きれいな字、へたくそ、変な顔、……。そんな資料たちですが、その時代の人々の気持ちや伝わってきますよ。ぶらっと、覗いてみてください。

貸出中の館蔵品

他の施設でも見られる歴博の貴重資料

歴博の館蔵資料は総数約十六万点にも及びますが、その一部は、県内外を問わず、他館の展覧会に貸し出されるものが少なくありません。また放送局や出版社へのポシフィルムなどの貸し出しも、よく行われています。展覧会や催し物などに比べるとあまり知られていない業務ですが、これも博物館の重要な仕事の一つなのです。

- ・「北国」下街道図屏風
- ・「前田公参勤帰国図巻」
- ・「金沢江戸道中絵図巻」
- ・「下街道参勤交代絵巻」
- ・「柳宮儀式図絵」
- ・「加賀藩江戸本郷邸泥絵」
- ・「泥絵（大手前・本郷邸）」

ほか計十七点

企画展「歴史の道 越中を中心に」

七月三日（金）～九月六日（日）

会場：射水市新湊博物館

（富山県射水市・〇七六六 八三 〇八〇〇）

・「色絵金彩雀に虫尽くし図花生」

ほか計一点

企画展「人とトンボ展」

七月十九日（日）～十月二十五日（日）

会場：石川県立自然史資料館

（金沢市・〇七六 二二九 三四五〇）



色絵金彩雀に虫尽くし図花生



前田公参勤帰国図巻
（部分）



北国下街道図屏風（部分）



加賀藩江戸本郷邸泥絵

主な刊行物のご案内

石川県立歴史博物館展示案内	（税込定価）	一、〇〇〇円
石川県立歴史博物館館蔵品目録		三、五〇〇円
冷泉家の歴史と文化		〇〇〇円
モダンな調へ 蓄音機		〇〇〇円
太子信仰と北陸 聖徳太子へのあこがれ		二〇〇円
永光寺の名宝		二〇〇円
紀尾井町事件 武士の近代と地域社会		七〇〇円
うさぎワンダーランド		七〇〇円
祝い絵 ディスプレイの民俗誌		〇〇〇円
能楽 加賀宝生の世界		二〇〇円
利家とまつが生きた時代 戦い・くらし・女たち		九〇〇円
景勝をめぐる いしかわの景観史		二〇〇円
いしかわの歌仙絵馬		四〇〇円
風俗画伯 巖如春 都市の記憶を描く		四〇〇円
源平合戦と北陸 義経伝説を育んだふるさと		六〇〇円
加賀百万石への道 戦国から太平へ		二〇〇円
昭和ワンダーランド モノでたどる戦後		〇〇〇円
石川のお宝史 名宝から文化財へ		三〇〇円
弥生ムラの風景 越のクニ生み・境界・交流		二〇〇円
御用絵師梅田九栄と俳諧 芭蕉の教えを守った男		三〇〇円
肖像画にみる加賀藩の人々		四〇〇円
KOSODE 百・華・綾・乱 丸紅所蔵衣裳名品展		五〇〇円
春日懐紙（最新刊）		五〇〇円

総合カウンターで販売中。定価はすべて税込。郵送ご希望の方は、当館へ直接お問い合わせいただくか、当館ホームページ「刊行物案内（図録等）」をご覧ください。（電話〇七六 二二六 二二三三六）



春の歴史散歩「盛り場の聖地をめぐる」

五月十二日、二十五名の皆様の参加を得て春の歴史散歩を開催。新天地飲食店街の一角にある地藏尊、長町の養智院、前田土佐守家資料館、中央通町の犀川神社など巡りました。各所で関係の方から丁寧なご案内をいただき、充実した一日でした。当日お世話下さいました関係各位に、改めてお礼申し上げます。



東宝映画「ゼロの焦点」再び当館で口ケ



三月に引き続き四月二十日、東宝映画「ゼロの焦点」(犬童一心監督・十一月公開予定)の撮影が当館石引分室(旧陸軍金沢借行社)で再開。今回は主人公鶴原禎子役の広末涼子さんと、事件の重要人物田沼久子役の木村多江さんとのツーショットの場面が、一日がかりで撮影されました。写真は撮影前に入念な打合せをする犬童監督(中央)。

催事日録

七月十二日、前後期に分けて開催された「KOSODE」展が終了。総合商社丸紅が所蔵する染織コレクションのうち、淀君の小袖裂や、江戸好みの友禅染、贅を尽くした婚礼衣裳など数々の名品をたっぷりご紹介。和服姿の来館者も目立ち、また複数の地元大学の学外授業として活用されるなど、さすがに金沢開催らしい雰囲気の良い会風景でした。



五月三十日、石川の歴史遺産セミナーを開催。六回目となる今回のテーマは「参詣と巡礼 中世豊場論」。豊場としての白山に参詣する意味や、歴史的展開などについて考えていこうとするものです。地元と県外から二名の講師をお招きして発表をいただきました。昨年一月から始まったこのセミナーへの関心は高く、毎回多くの皆様のご参加をいただいています。

五月三十日、石川の歴史遺産セミナーを開催。六回目となる今回のテーマは「参詣と巡礼 中世豊場論」。豊場としての白山に参詣する意味や、歴史的展開などについて考えていこうとするものです。地元と県外から二名の講師をお招きして発表をいただきました。昨年一月から始まったこのセミナーへの関心は高く、毎回多くの皆様のご参加をいただいています。

「KOSODE 百・華・繚・乱」展終了

石川の歴史遺産セミナー開催

行事日程(7~9月)

月日	行事	内容
7/18(土)	れきはくゼミナール	神にめされる馬 (学芸主幹 戸潤幹夫)
8/2(日)	常設スポット解説	蛸巻論争 不思議な形の土器の正体は? (学芸主幹 戸潤幹夫)
9/6(日)	常設スポット解説	金沢製糸場をめぐる (学芸課長 本康宏史)
9/20(日)	れきはくゼミナール	本願寺展 歴史をみる (資料課長 濱岡伸也)

開講時間：午後2時
会場：常設スポット解説：第1展示室(8/2)・第5展示室(9/6)
れきはくゼミナール：学習ホール

受講料：無料 常設スポット解説は無料。ただし他の展示もあわせて観覧の場合は入館料が必要

申し込み：不要 当日受付へお申し出下さい。
8月のれきはくゼミナール開催はありません。

人事異動(4月1日付)

転入	総務課 小原 卓(障害保健福祉課より)
転出	企画管理専門員 谷口秀子(消費生活支援センターより)
昇任	総務課長 清谷幸博(金沢向陽高等学校へ)
退職	学芸主幹 戸潤幹夫 学芸主幹 本谷文雄 学芸課長 本康宏史 資料課長 濱岡伸也 総括学芸主幹 高橋 裕

れきはく
トリヴィア

本物の迫力・舟小屋

夏でもひんやりとした展示室。ことに二階の第三展示室は、古い家屋の復元展示が中心。何かほっと一息つけるような趣がある部屋なので、なおのこと涼しさは心地いいですね。

さてこの第三展示室に入って左側に、「海のひとびと」のテーマ展示「能登の舟小屋」があります。波打ち際に立つ小屋らしく、波の音がどこからともなく…。そして、古そうです、この造りは。

最近の博物館やテーマパークでは、新しく作った建物や部屋でも、わざと塗装や壁がはがれているようにしたり、サビやカビをつけたりするなどして古いものに見せる、「エイジング」という美術手法がよく使われています。その技術の巧みさには本当に驚くばかり。ところ



ろがこの舟小屋（他の商家や白山麓民家も同様ですが、そんな特殊メイク無用の本物なのです。「能登の舟小屋」、もともとは珠洲市寺家町のある漁家所有のもので、実

際に昭和三十年代頃まで使われていました。小型の漁船を一、二艘収納しておく小屋で、天井裏には、現在の展示どおり、漁網や突漁道具、浮樽などの漁具を配置。昭和初期に作られたといわれており、梁は松と檜、柱は椎の曲がったままの自然木、また壁は葺、屋根は茅でそれぞれ葺かれています。

博物館開館に合わせて譲り受け、昭和六十三年十一月と十二月の二期に分けて、復元工事が行われました。工事は、舟小屋の造作に詳しくあった珠洲市の二人の大工さんに依頼。さすがに壁の葺や屋根の茅は、創建当時のものというわけにはいかず、昭和末期のものを使っています

が、それ以外は細かい所まで正確に復元していただきました。工事の最中には地元テレビ局が取材に訪れたことも。インタビュウを受けた大工さんが、「能登の文化財を、自分の手で後生に残せることができている」と笑顔で答えていた姿が忘れられません。舟小屋は近代化の波に押し消滅してただけに、当館での復元作業は意義があったというべきでしょう。貴重な民俗文化財です。



テレビ放送取材(昭和63年12月)



復元作業中(昭和63年12月)

トリヴィア＝雑学的な事柄や知識、豆知識

次回の展覧会

秋季特別展 親鸞聖人七五〇回大遠忌記念
本願寺展 世界遺産の歴史と至宝

9月19日(土)～11月3日(火・祝)
休館日 10月13日(火)
第1特別展示室・第1展示室

本願寺(西本願寺)は浄土真宗本願寺派の本山として古今にわたり信仰を集めてきました。この展覧会では宗祖親鸞聖人と歴代門主の肖像や絵巻物、典籍類、障壁画など、国宝五件、重要文化財二十七件を含む約百五十件の資料を紹介いたします。本願寺の歴史を物語る文化遺産と美の世界をご鑑賞下さい。



集歌集 三十六人
元真集 うち元真集
平安時代 37帖のうち

展示替えによる休館日(7～9月)

7月13日(月)・17日(金) 2日間
8月は休館日なし
9月1日(火)～3日(木) 3日間
9月14日(月)～18日(金) 5日間

本多の茶林から

淀君があつらえたといわれる辻が花染小袖、嫁がせる娘への愛情いっぱい婚嫁衣裳、天折した娘愛用の友禅振袖…。どれをとっても当時の女性たちの着物に寄せた思いが偲ばれる、「KOSODE」展でした。

さて夏は気分一新、文学にまつわる話題です。重要文化財に指定された鎌倉時代の資料「春日懐紙」。裏面にはなんと『万葉集』が筆写されていました。さあ、悠久の歴史ロマンに思いを馳せてみませんか。